

「レノンウエーブ」

えそ斑点病に耐病性！

耐暑性にすぐれ

幅広い作型で能力を発揮！



耐病性 MNSV.F0.F2.PM

■「レノンウエーブ」適期表

月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
冷涼地											
中間地											
暖地											

この度、新発表した「レノンウエーブ」は、えそ斑点病に耐病性で、耐暑性にすぐれ、高品質（肉厚・高糖度）かつ日もちがよく、食べごろが長続きする特長をもつ品種として育成しました。昨年発表の早出し品種「レノンハート」と組み合わせることで、高品質メロンの安定供給と消費回復に貢献できればと願っています。

一方、生産現場では、気象変動が激しさを増し、連作の影響で病害リスクは高まり、安定生産はますます困難となっています。中でも拡大傾向のえそ斑点病は、耐病性台木の利用が一般的となり、接ぎ木作業やコストの面から、耐病性穂木品種の開発が求められています。

濃厚な味わいで贈答用としても人気のネットメロン。消費低迷が続く背景には「食べごろが分からない」「せっかく買ったのにおいしくなかった」など、品質に対する消費者の不満が大きく影響しています。こうした中、市場ではより品質が安定し、食べごろが長く、当たり外れの少ないメロンが強く求められています。



タキイ研究農場
わたなべ 渡辺 剛

» 品種特性

1 耐暑性にすぐれる

草勢は強めでつるもちがよく、高温期でも栽培が安定します。また、低温期でも生育が緩慢になりにくいので、ハウス～トンネル作まで幅広い作型で能力を発揮します。

2 果ぞろいがよく 秀品率が高い

果形は球形で果ぞろいよく仕上がります。ネットは太めで密に安定して発生し、秀品率が高くなります。

3 市場性が高い

「レノン」シリーズの特長は肉厚性にあります。種子部が小さく、皮際まで果肉たっぷり、需要拡大が続くカットフルーツにも対応しています。肉質は緻密で高糖度。高温期出荷でも果肉は濃いオレンジに発色します。さらに、日もちにすぐれるため食べごろの状態が長続きするのが強みです。

4 えそ斑点病(MNSV)に耐病性で作りやすい

えそ斑点病は、生育不良や果実の糖度が上がらない、あるいは「ス入り」を引き起こすなど、生産・流通の両面で影響を与えますが、「レノンウエーブ」は、安定した耐病性を示します。また、接ぎ木栽培でも防げなかった地上部（傷口など）からの感染も防ぐことが可能です。

そのほか、つる割病(F0、F2)とうどんこ病にも耐病性を示します。裂果もしにくいので安心して栽培できます。

栽培ポイント

施肥量

「レノンウエーブ」はやや草勢が強いですが、特に減肥する必要はありません。肥料は元肥主体で10a当たり成分量でチッソ10～20kg、リン酸15～18kg、カリ12～15kg、完熟堆肥2～3tを目安に、本圃の肥沃度や前作の残肥を計算して施肥量を決定してください。

着果枝の伸び始めに灌水

交配までに必要な整枝を済ませ、着果枝と雌花の充実を図ることが重要となります。特に「レノンウエーブ」は、着果枝の伸びはじめに水を欲しがる品種です。着果節（11～15節が基本）までの整枝を済ませた段階で、着果枝の伸び始めに少量灌水を行い、がっちりした着果枝（雌花までの距離が20cm程度）で交配を迎えることが重要となります（第1図）。着果枝が弱い場合は、節位を上げ、灌水するなどして草勢が回復した状態で着果させるようにします。

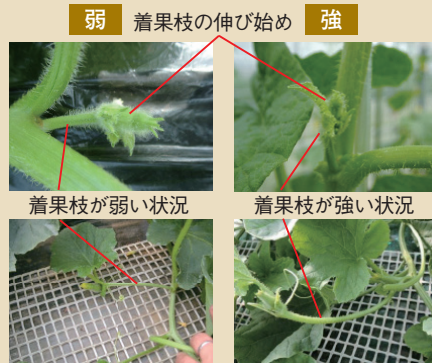
灌水、換気のポイント

・定植～交配期

「レノンウエーブ」はつる伸びが早

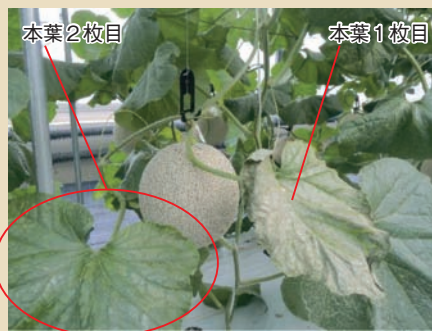
第1図
着果枝と雌花の
充実を図る

着果枝が弱いまだと扁平果、肥大不良の原因になるため、着果枝伸び始めのころ、天候を考慮して必ず灌水する。



第2図
熟期判断のポイント

本葉1枚目葉枯れ時の若もぎに注意する。本葉2枚目の葉枯れ時が熟期の目安。



「レノンウエーブ」適作型

暖地では5月中旬～6月上旬収穫、中間地では5月下旬～7月中旬収穫、冷涼地では7月～8月下旬収穫のハウス～トンネル栽培の作型が最適で、早出し品種「レノンハート」との組み合わせでリレー出荷が可能となります。

■「レノンウエーブ」と「レノンハート」のリレー出荷例

	品種	収穫期						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
冷涼地	レノンウエーブ							
	レノンハート							
中間地	レノンウエーブ							
	レノンハート							
暖地	レノンウエーブ							
	レノンハート							

適熟果収穫に努める

そのため、蒸し込み管理を続けると、地上部の生育が走りがちになります。活着後は極力灌水を控え、昼間の気温は25℃を目安に換気し、交配まではなるべくじっくり生育させます。

・着果～ネット発生期

交配前からは、やや高め温度管理で着果を促します。着果確認後は灌水を開始し、初期肥大と遊びづるの伸長を促します。この時期に極端な蒸し込みを続けると、草勢が低下し、果皮色が濃くなつてきます。このうなるとネット発生の遅れやネットボケ（ボウズ玉）、大玉化につながる

・ネット発生期～完成期

ネットが全面に回りだすころから灌水を増やし、草勢回復と二次肥大を促します。「レノンウエーブ」は栽培後半にかけても緩やかに肥大が持続するので、果実サイズを見ながら換気調節していきます。肥大が完了するころには換気を強め、灌水も株の状態に合わせ、徐々に減らしながら登熟に努めます。

熟期は55～57日タイプです。糖度上がりが早いこと、また収穫の目安となる着果枝1枚目の葉枯れが収穫期よりも数日早く現れるため、特に若もぎに注意するようにします（第2図）。

着果枝2葉摘芯をしている場合は、着果枝2枚目の葉の枯れ込みを参考として、開花後日数と合わせて必ず試し割りを行います。肉質も考慮したうえで、適熟果収穫に努めてください。

メロン「レノンウエーブ」栽培メモ

最適播種期	冷涼地：3月～4月中旬、中間地：12月下旬～3月上旬、暖地：11月中旬～1月上旬
熟期	55～57日型
耐病性	メロンえそ斑点病、つる割病レース0・レース2、うどんこ病
肥料の目安	元肥主体で10a当たり成分量で、N10～20kg、P15～18kg、K12～15kg、完熟堆肥2～3t
播種基準	畝幅：250cm、条数：1、株間：50～70cm（地這い栽培・小つる2本仕立て）

「レノン」シリーズ特性比較表

品 種 名	果重	ネットの状態	外皮色	果形	果肉色	糖度	日もち	草勢	登熟日数(日)	※耐病性
レノン	1.5～1.7kg	良	灰緑	高球	サーモン	15～16	極良	中強	57～60	F0.F2.PM
レノンハート	1.6～1.8kg	良	灰緑	球	サーモン	16～17	極良	強	55～57	MNSV, F0.F2.PM
レノンウエーブ	1.5～1.7kg	良	灰緑	球	サーモン	16～17	極良	強	55～57	MNSV, F0.F2.PM

※耐病性：MNSV＝メロンえそ斑点病、F0＝つる割病レース0、F2＝つる割病レース2、PM＝うどんこ病

※うどんこ病は菌の種類、レースによっては発病することがあります。